

事業の概要

サ イエンス・パートナーシップ・プロジェクト(略称:SPP)は、小・中・高等学校や教育委員会、生涯学習機関等と、大学・科学館等が連携して実施する、科学技術の体験的・問題解決的な学習活動を支援している。この活動により、児童生徒たちの科学技術、理科、数学に対する興味・関心と知的探究心等を育成するとともに、これらを学ぶことの意義を実感することや将来の進路選択の幅を広げ、分厚い科学技術関係人材層を形成することを目指している。

SPPには3つのプランがある。
プラン初A:これまでSPPに採択され

たことのない機関による講座。

プランA:体験的・問題解決的な学習活動を中心とする講座。

プランB:体験的・問題解決的な学習活

●平成22年度の実績

採択件数

プラン初A=178

プランA=474

プランB=89

合計 741件

受講人数(延べ)

小学校=19,022

中学校=35,203

高等学校=64,093

その他=530

合計 118,848人

(申請書より算出)

動のなかで、児童生徒の科学的探究力育成のための活動を含めたものであり、1つのテーマで内容的に深めていく複数回の講座。

プランA、Bでは児童生徒が考え、意見やまとめを発表、レポートする活動も重視されている。

平成22年度は、741件の企画が採択され、12万人近くの児童生徒が参加。普段の授業では体験できない、大学や研究機関の第一線で活躍する研究者や技術者と学校の教員が連携した、趣向を凝らした実験や実習を行い、科学のおもしろさにふれた。

実施事例から

プラン初A

岐阜県白川町立白川中学校

連携先:岐阜大学教育学部数学科

身近な素材をテーマに、学年ごとに異なるプログラムが企画され、全校生徒189人が参加するワークショップが行われた。

「数学の世界への誘い(いざない)」と題されたワークショップは、連携先である岐阜大学教育学部数学科の愛木豊彦准教授の指導の下、大学生や大学院生14名も参加して実施された。



講座名

数学の世界への誘い(数学的活動体験を通して)

1年生は、山を円錐にたとえて最短距離の道路を作ることを考える「マウンテンドーロ」、2年生は、料金表にない大量の白川茶を宅配便で送るときに、最も料金が安くなる方法を考える「安いワケ!」、3年生は、ドミノの個数と倒れるのにかかる時間との関係を調べる「じっかん!!ドミノ番組」。

参加した生徒たちは、問題を解きながら数学のおもしろさや不思議さを体感した。

プランB

長崎県立猶興館高等学校

連携先:長崎大学、佐賀大学、九州大学大学院総合理工学研究院、西海国立公園九十九島水族館「海きらら」

今年度の講座は、理数科の1年生40人を対象に昨年の7月から10月にかけての複数回で行われた。

大学や水族館と連携し、実験・観察を通して、海洋生物や海洋環境、海洋工



講座名

総合的な海洋利用社会の実現を目指す特別講座

エネルギーの利用について学ぶというもので、長崎県の平戸島の北部に位置し、海との関わりの深い猶興館高等学校ならではのプログラムとなっている。

生徒たちは定置網漁業体験や魚の解剖、干潟の観察、潮流発電の見学などから、海と人間との関係について学ぶとともに、成果のレポートにも取り組んだ。生徒がこのプログラムで学んだことをまとめた小論文は、第12回高校生小論文コンクール(財生涯学習振興財団主催)で優秀賞を受賞している。

TEXT: 大宮耕一